

2017年5月15日

東北大学 災害科学国際研究所
 亶理町 総務課 安全推進班
 株式会社サーベイリサーチセンター



東北大学



International Research Institute of Disaster Science



わたりちょう



株式会社

サーベイリサーチセンター

SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

2016年11月22日 福島県沖地震津波避難行動に関するアンケート

共同調査の実施と結果のあらまし

平成28年11月22日に発生した福島県沖地震では、宮城県沿岸部にも津波注意報・警報が発表され、亶理町では避難指示を発令するに至りました。

この地震及び津波に対する避難行動の状況を把握するために、東北大学災害科学国際研究所・亶理町・株式会社サーベイリサーチセンターの3者が、共同調査研究を実施しました。

調査結果は、亶理町の防災施策検討に活用すると共に、広く防災研究や報道、広報・啓発などの活動で利用します。

1. 調査概要

- 調査対象：亶理町荒浜地区・吉田東部地区かつ平成23年3月11日に発生した津波浸水域に、現在居住する1,000世帯（世帯向け調査）
- 調査方法：調査対象地域にて、無作為抽出された住戸1,000戸に対して調査員が調査票を配付。同封された返信用封筒によって、記入済みの調査票を返送して頂く方法で実施した。
- 回収状況

①標本数	②有効回収数	③有効回収率
1,000件	530件	53.0%

(回収状況の地区別分布)

地区名	地区世帯数*	有効回収世帯数
荒浜地区	757世帯(36.6%)	184世帯(34.7%)
吉田東部地区	1,313世帯(63.4%)	346世帯(65.3%)
計	2,070世帯(100.0%)	530世帯(100.0%)

*印：地区世帯数は、平成28年9月末住民基本台帳データによる今次津波1m以上浸水地域の世帯数

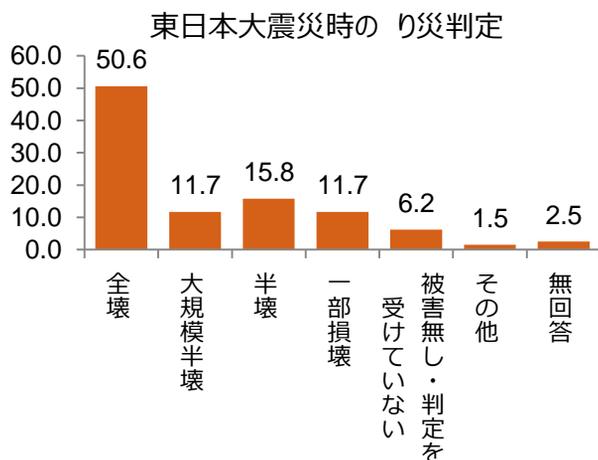
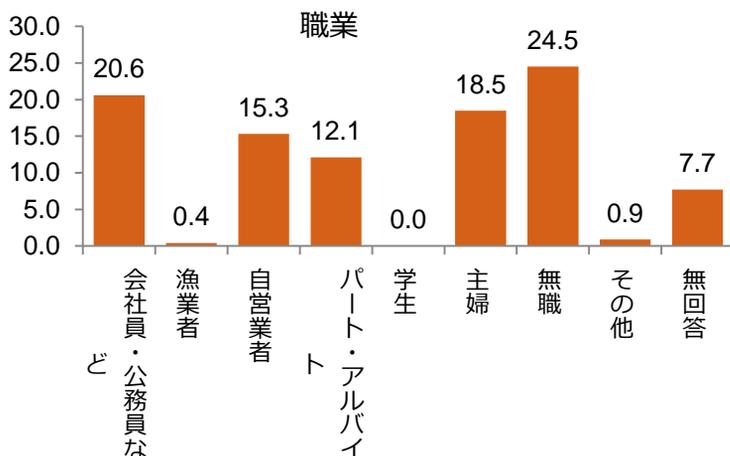
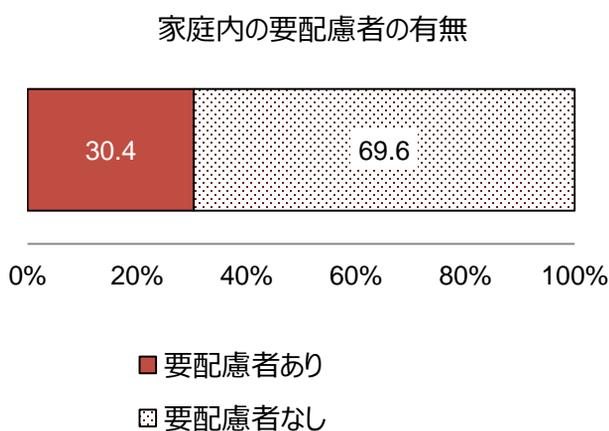
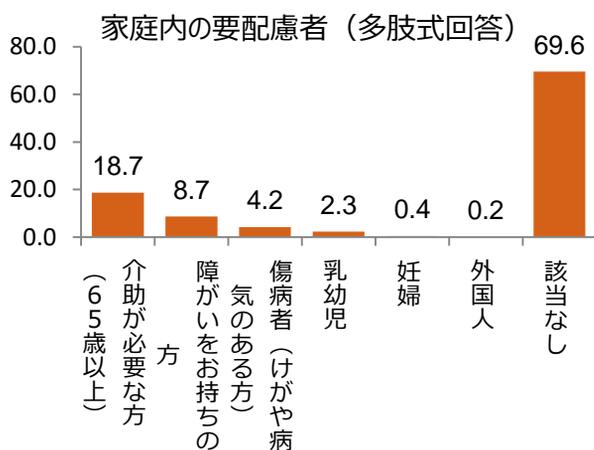
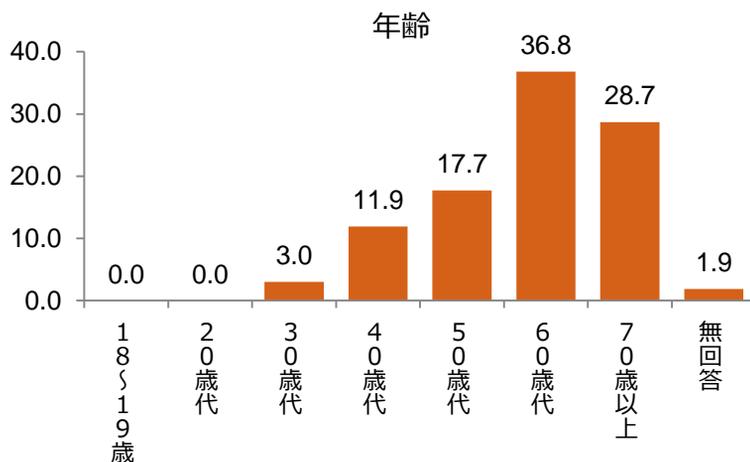
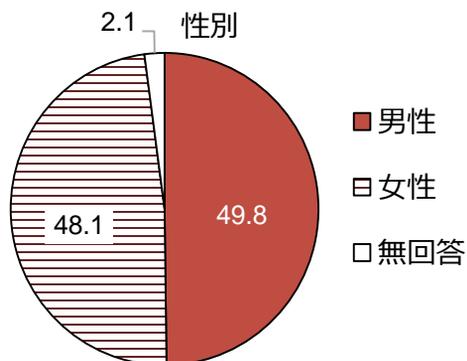
■ 調査実施期間

- ①配付活動期間：平成29年2月11日（土）～2月14日（火）
- ②調査回収期間：返送開始～平成29年3月6日（月）到着迄

2. 回答者のプロフィール

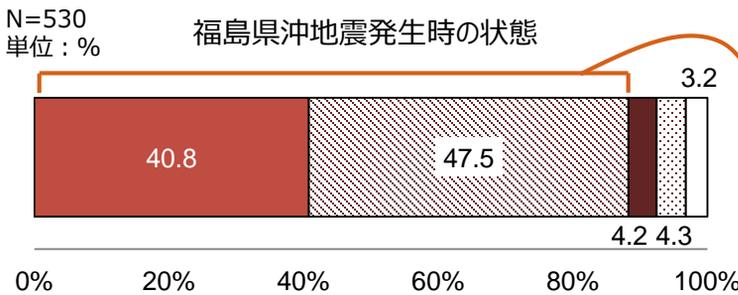
- 本調査は、「平成23年3月11日に発生した津波浸水域にある住戸」を対象とした世帯調査であり、対象者の指定は行っていないものの世帯主またはそれに代わる方が回答を行っている場合が多いことから、回答者の年代は60歳代が最も多く、60代以上が約6割を占めている。
- 男女比では女性が48.1%、災害時の要配慮者がある世帯が約3割という結果になっている。
- 東日本大震災時のり災判定では、「全壊」、「大規模半壊」が6割以上を占めている。

当ページの全図は N=530 単位：%



3. 福島県沖地震発生から避難行動へのつながり

地震発生当時、在宅率は約9割で半数弱は就寝中だった。津波注意報（6時2分）、避難指示（6時50分）、津波警報（8時9分）は、いずれも9割前後の認知状況で、避難した人の約25%は「津波警報」を、避難要否の判断基準としていた。平成23年の津波経験なども判断材料となり、「大きな津波は来ないと思った」人（避難しなかった人の57.2%）や、「テレビ・ラジオ等での情報収集を優先した」人（同29.4%）が多く、全体の3割以上が避難をしなかった。（避難実施率63.8%）



- 自宅で寝ていた
- ▨ 自宅で起きていた
- 自宅外にいた（東日本大震災で津波浸水した場所または海上）
- ▨ 自宅外にいた（東日本大震災で津波浸水しなかった場所）
- 無回答

①地震発生時の状態

5時59分	
100.0% (N=530)	
在宅	自宅以外
88.3%	8.5%

②予警報・避難指示の認知状況

6時2分	6時50分	8時9分
津波注意報 認知率 94.3%	避難指示 認知率 88.5%	津波警報 認知率 89.2%

★「津波注意報」の認知がやや高い

③津波危険性の予測

6時2分	6時50分	8時9分
来る 71.8%	来る 77.6%	来る 82.0%
来ない 26.4%	来ない 19.2%	来ない 17.3%

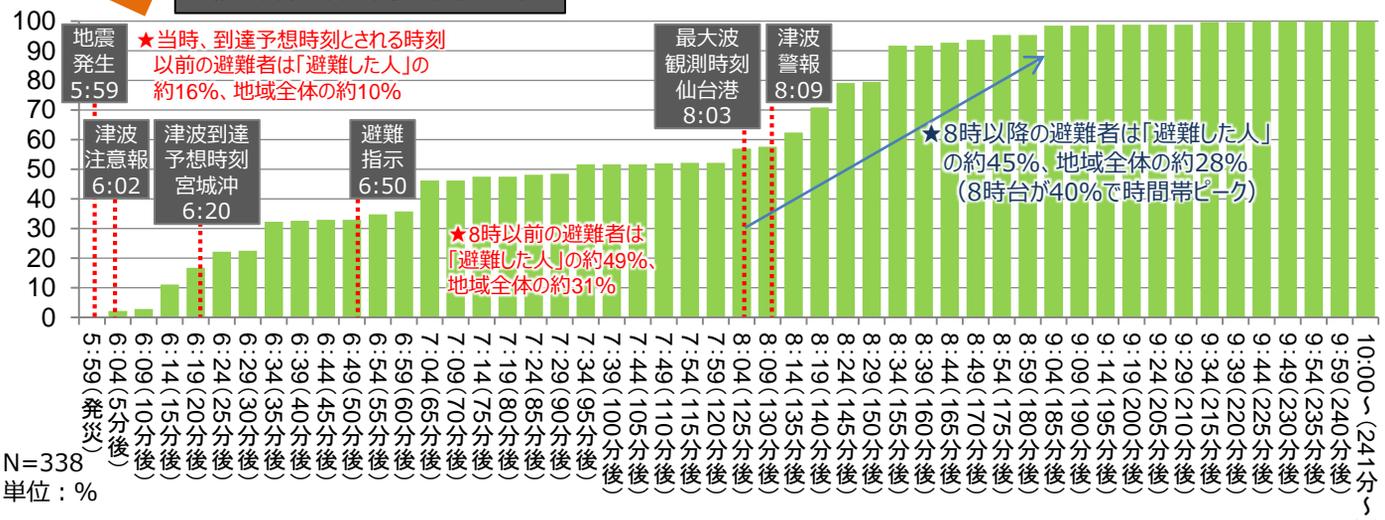
★「津波が来る」意識が漸増（「来ない」が漸減）している

④避難行動

避難した 63.8%	避難しなかった 34.0%	
	避難を考えた 39.4%	考えなかった 52.2%

★避難した人のうち約25%が「津波警報」を避難の判断基準としている

⑤避難開始時刻の累積分布



4. 避難手段・避難場所・持ち出し品

避難先への移動手段は、「車」が91.1%、「徒歩」が5.0%となっている。車避難の主な理由は、「安全な場所が遠い」、「普段、車を使って行動するから」、「車が大切な財産（失いたくない）」が共に4割以上と多い。車避難の際に、渋滞に遭遇したとの回答は8.4%。9割近くが渋滞には遭わなかったと回答している。

避難時の持ち出し品としては、「携帯電話・スマートフォン」が約8割、「現金」が約7割、「保険証」、「預金通帳・財布等の貴重品」が約6割と多い。

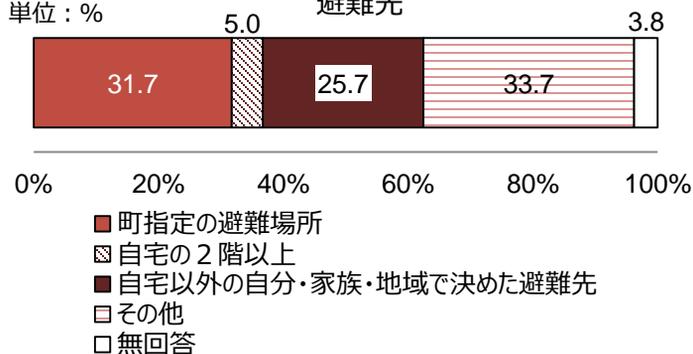
N=338（避難をした人）
単位：%

避難手段



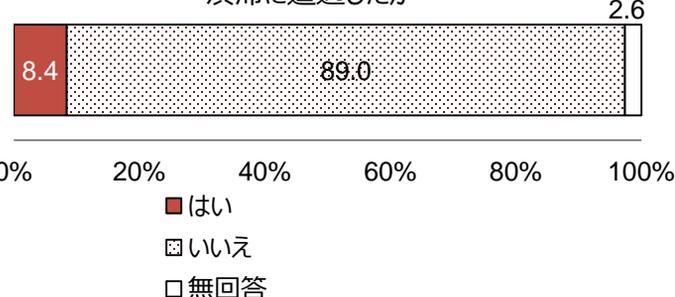
N=338（避難をした人）
単位：%

避難先



N=308
(車で避難をした人)
単位：%

渋滞に遭遇したか



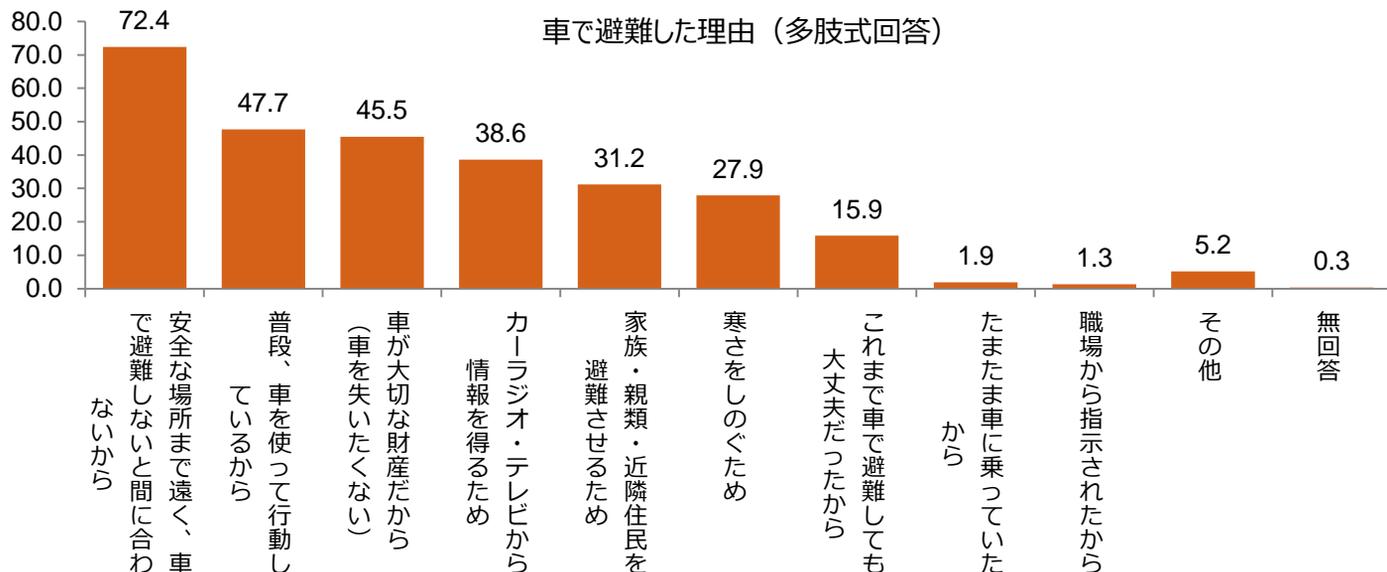
N=338
(避難をした人) 持ち出し品（多肢式回答）

項目	回答率
携帯電話・スマートフォン	80.5%
現金	75.4%
保険証	66.6%
預金通帳・財布等の貴重品	60.9%
食料・飲料水	36.4%
薬	33.4%
懐中電灯・電池	25.7%

※回答率20%以上の項目を抜粋

N=308（車で避難をした人）
単位：%

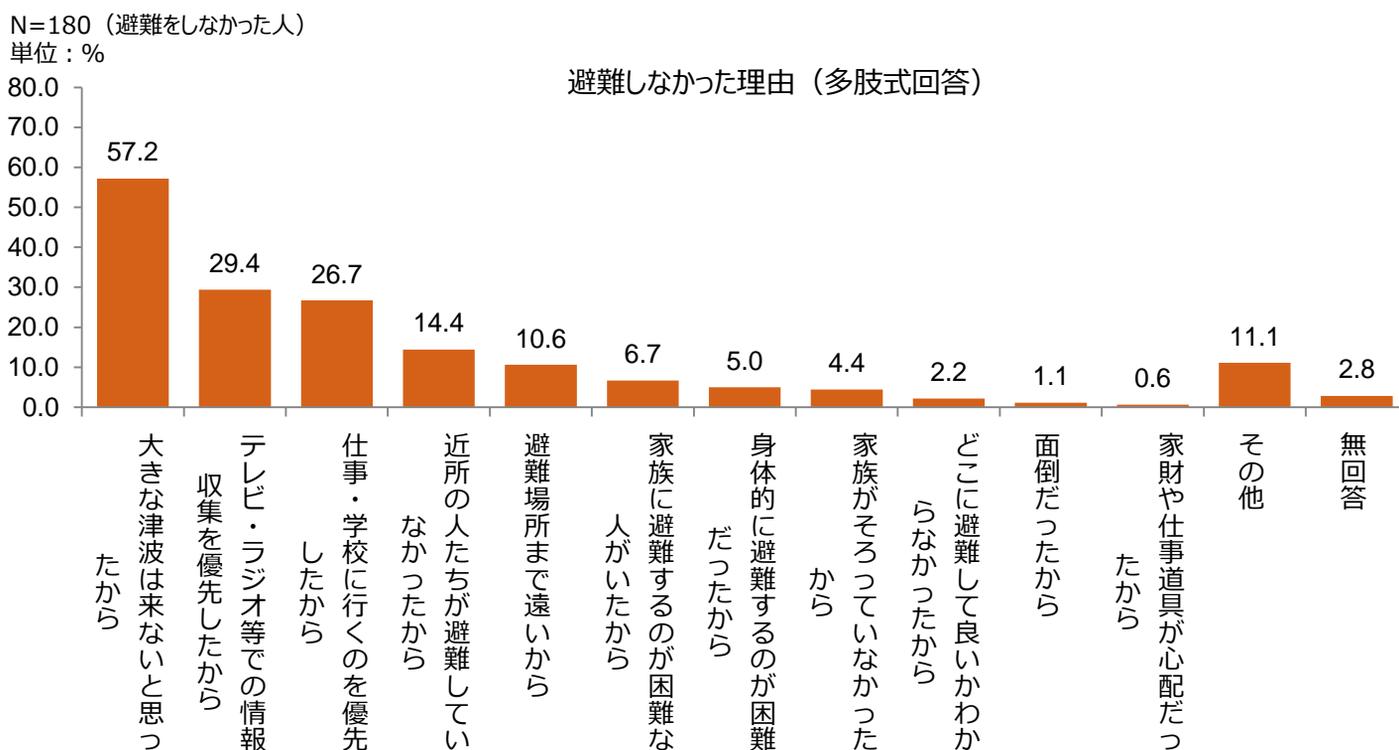
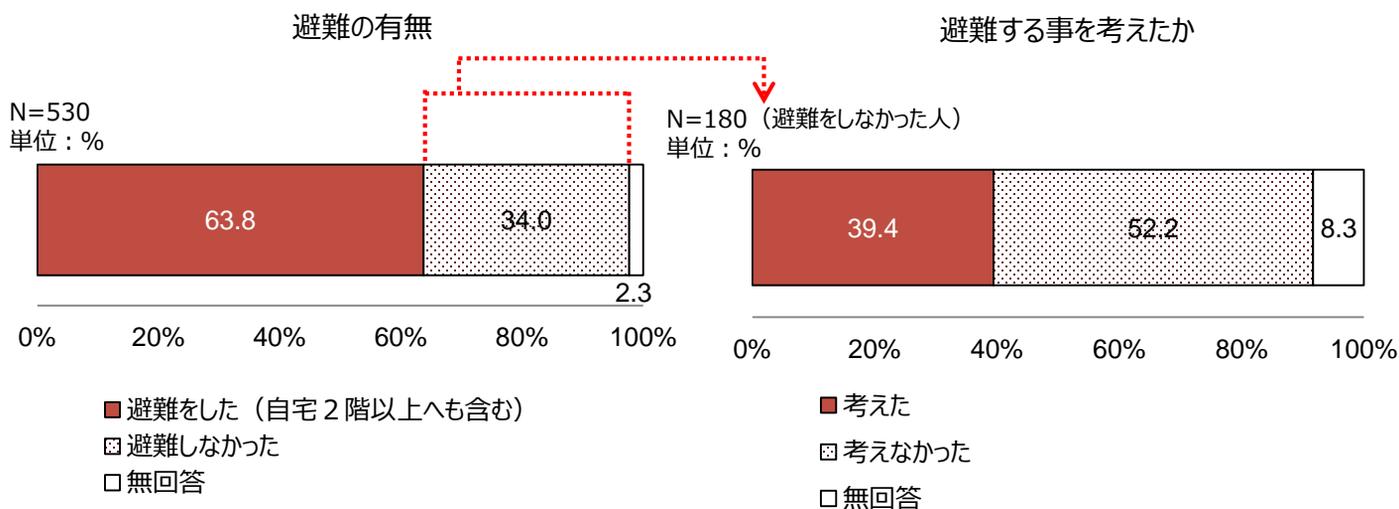
車で避難した理由（多肢式回答）



5. 避難しなかった理由

避難をしなかった人のうち、避難することを「考えた」人は約4割。5割以上は避難することを「考えなかった」と回答している。

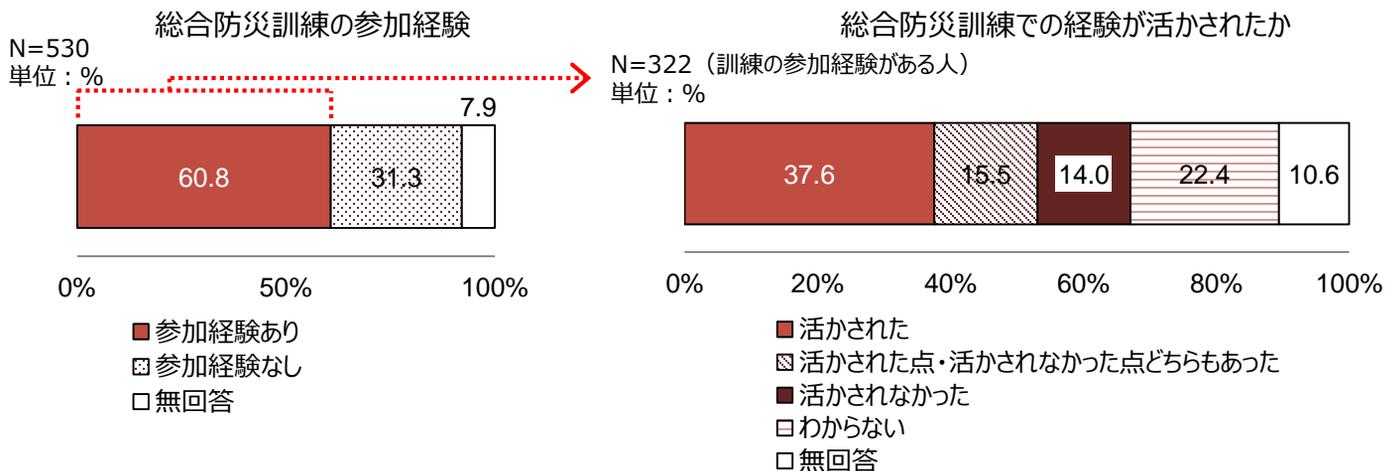
避難しなかった人にその理由をたずねたところ、「大きな津波は来ないと思ったから」が57.2%と最も多かった。他には、「テレビ・ラジオ等での情報収集を優先したから」（29.4%）、「仕事・学校に行くのを優先したから」（26.7%）、「近所の人たちが避難していなかったから」（14.4%）、などの理由が挙げられている。



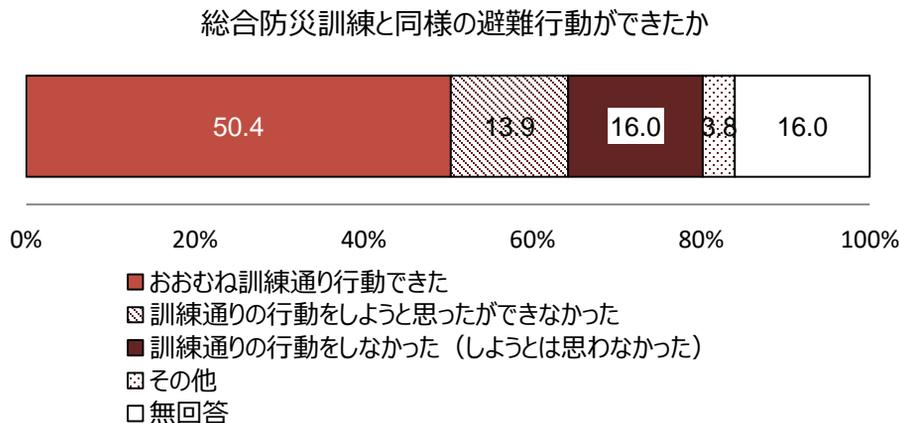
6. 総合防災訓練、東日本大震災の経験

総合防災訓練の参加経験は約6割が「ある」と回答している。参加経験がある世帯では、今回の避難行動に、訓練経験が「活かされた」（37.6%）「活かされた点・活かされなかった点どちらもあった」（15.5%）を合わせて53.1%が『活かされた点があった』と回答している。

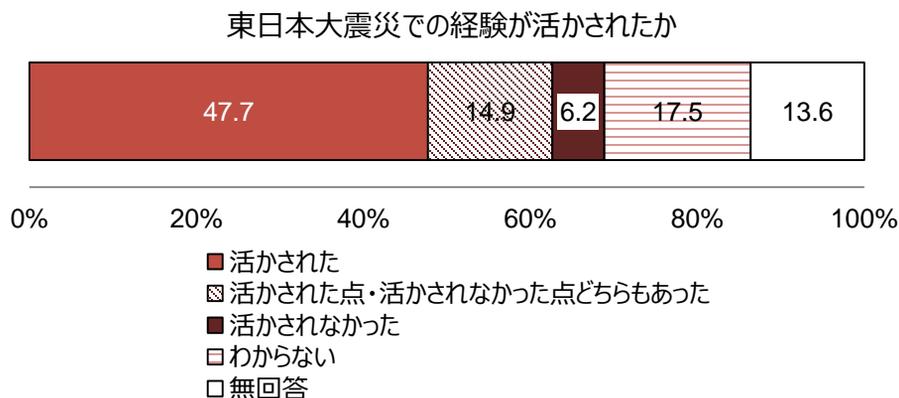
東日本大震災での経験については、「活かされた」（47.7%）「活かされた点・活かされなかった点どちらもあった」（14.9%）を合わせて62.6%が『活かされた点があった』と回答している。



N=238（訓練の参加経験があり、今回避難をした人）
単位：%



N=530
単位：%



- 本調査は、東北大学災害科学国際研究所、亶理町、株式会社サーベイリサーチセンターによる共同調査研究です。
- 引用、転載にあたっては、同3者の名称と、その共同調査研究であることの出所を明記して使用してください。
- ご不明な点など、問い合わせについては、お手数ですが下記までご連絡ください。

東北大学災害科学国際研究所

- 組織名 東北大学災害科学国際研究所
- 所在地 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468番1号
- 代表者 所長・教授 今村文彦
- 担当・連絡先 TEL 022-752-2140 担当：佐藤翔輔（助教）
- E-mail ssato@irides.tohoku.ac.jp

亶理町役場

- 組織名 亶理町役場
- 所在地 宮城県亶理郡亶理町字下小路7番地4
- 担当部門 総務課 安全推進班
- 連絡先 TEL 0223-34-1111（代表） 総務課 安全推進班 担当：遠藤匡範

協力：株式会社サーベイリサーチセンター

- 組織名 株式会社サーベイリサーチセンター
- 所在地 東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
- 担当部門 広報・法務部
- 連絡先 TEL 03-3802-6711（代表） 広報・法務部 担当：松下正人
- E-mail src_support@surece.co.jp